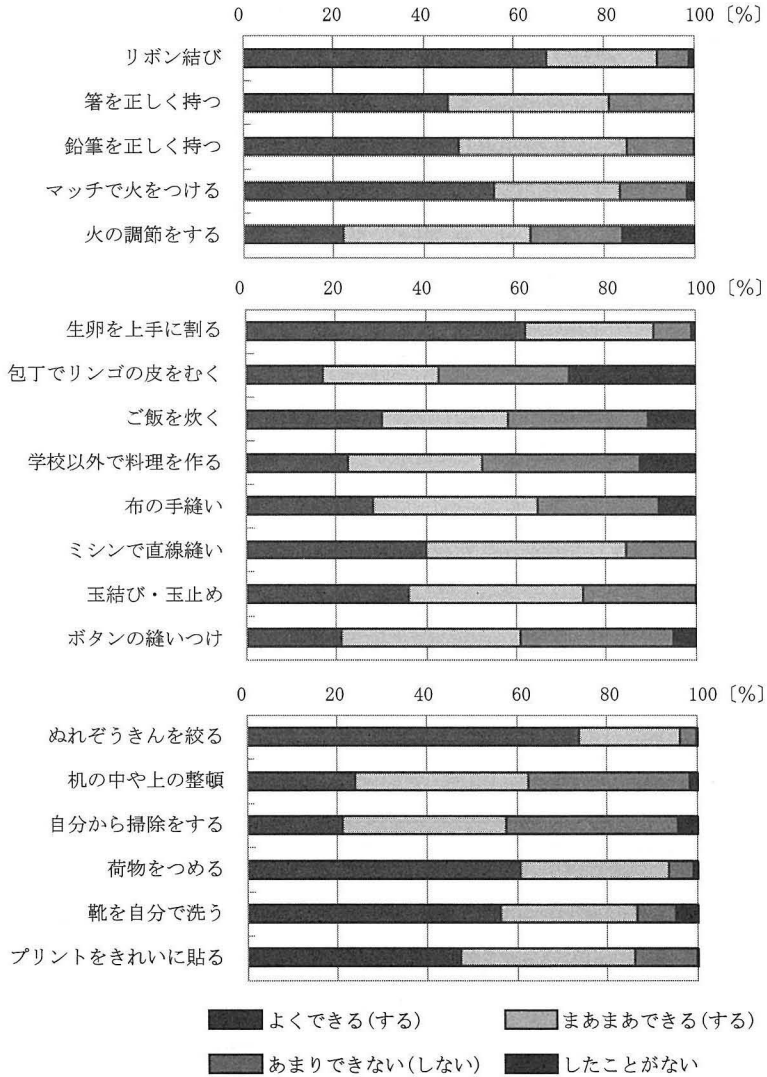

第 1 部

小学校児童（6年生）の生活技能について

第 1 部
 小学校児童（6年生）の生活技能について

1. 生活一般／調理・裁縫／掃除・整理整頓に関する技能

1-1. 生活一般／調理・裁縫／掃除・整理整頓に関する技能の習得状況



第 1 部
小学校児童（6年生）の生活技能について

リボン結びやマッチを使うことに関しては、自信を持って「よくできる」と答えた児童が 5 割を超え、比較的多いが、箸を正しく持つことや鉛筆を正しく持つことに関しては、自信をもって「よくできる」と答える児童は 5 割未満と少なく、「あまりできない」と答えた児童が 2 割近くいるなど、自信がないことがうかがえる。また特に、焚き火などの火の調節に関しては、「よくできる」と答えた児童は 2 割程度で、「したことがない」と答えた児童が 2 割弱いる結果となった。

生卵を上手に割ることに関しては、「よくできる」と答えた児童が 6 割を超え、「まあまあできる」を含めると、9 割以上の児童が「できる」と自信を持っていたが、他の調理・裁縫に関する技能では、「あまりできない」と答えた児童の割合が多くみられる結果となった。また、包丁でりんごの皮をむくことは、3 割の児童が「したことがない」と答え、炊飯器でご飯を炊く、学校以外で料理を作る、布の手縫い、ボタンの縫いつけなどの技能についても、「したことがない」という回答が目立った。

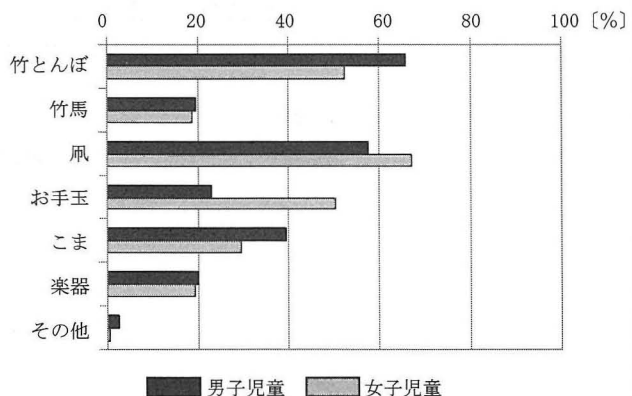
机の中や上の整理整頓や自分から掃除をすることに関しては、非常に結果が悪く、4 割の児童が「あまりできない」と答えていた。その他の掃除・整理整頓に関する技能では、できている児童が多いが、「よくできる」と自信を持っている児童は半数程度にとどまった。

昔のおもちゃづくりの経験は？

竹とんぼやお手玉などの昔のおもちゃづくりについて設問したところ、右グラフのような結果が得られた。

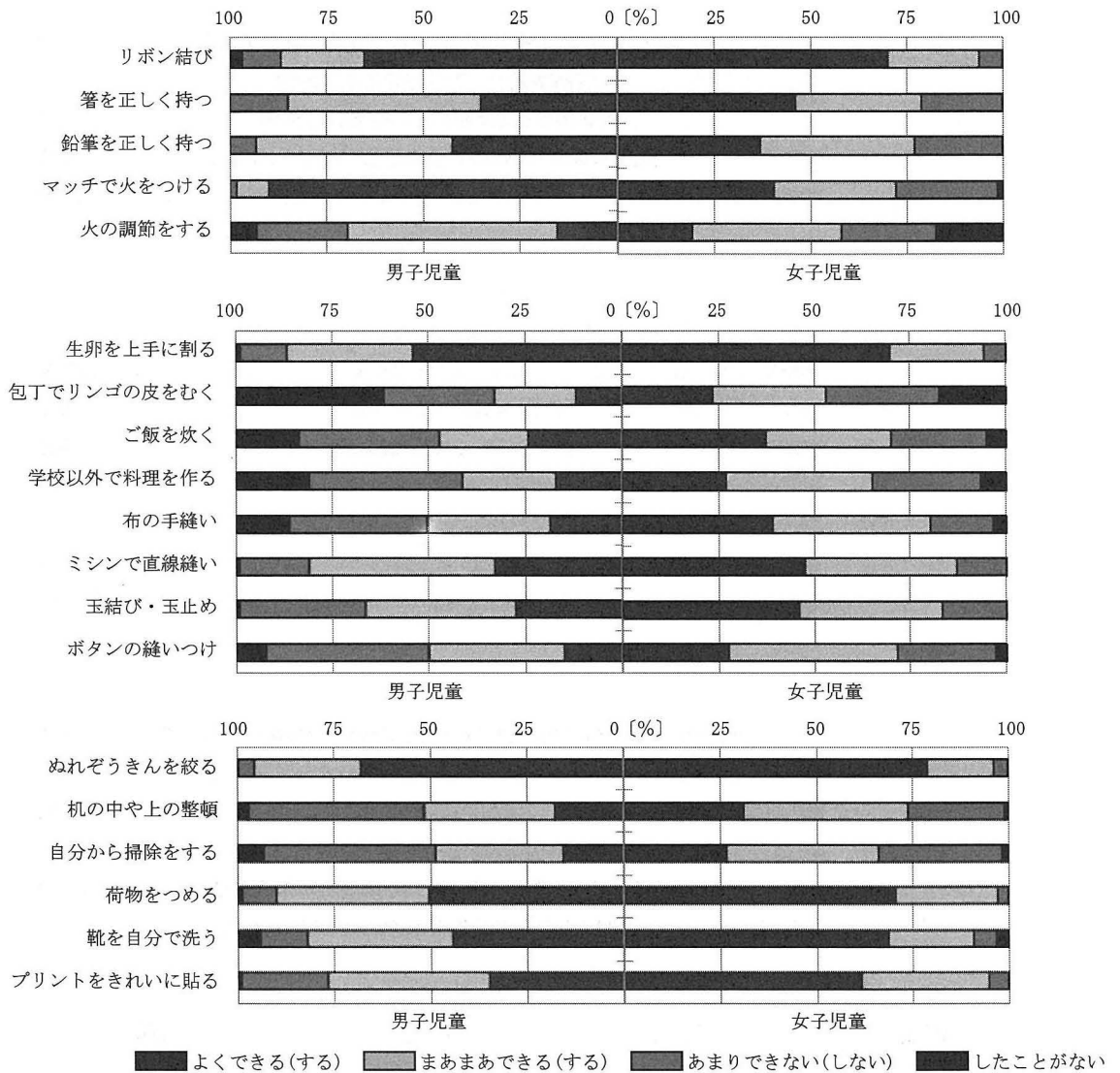
竹とんぼや凧などは 6 割の児童が作った経験があるが、竹馬やお手玉、こまなどは多くとも 3 割程度であった。

また、お手玉は女子児童の方が圧倒的に多かった。



第 1 部
 小学校児童（6年生）の生活技能について

1-2. 生活一般／調理・裁縫／掃除・整理整頓に関する技能の男女別習得状況



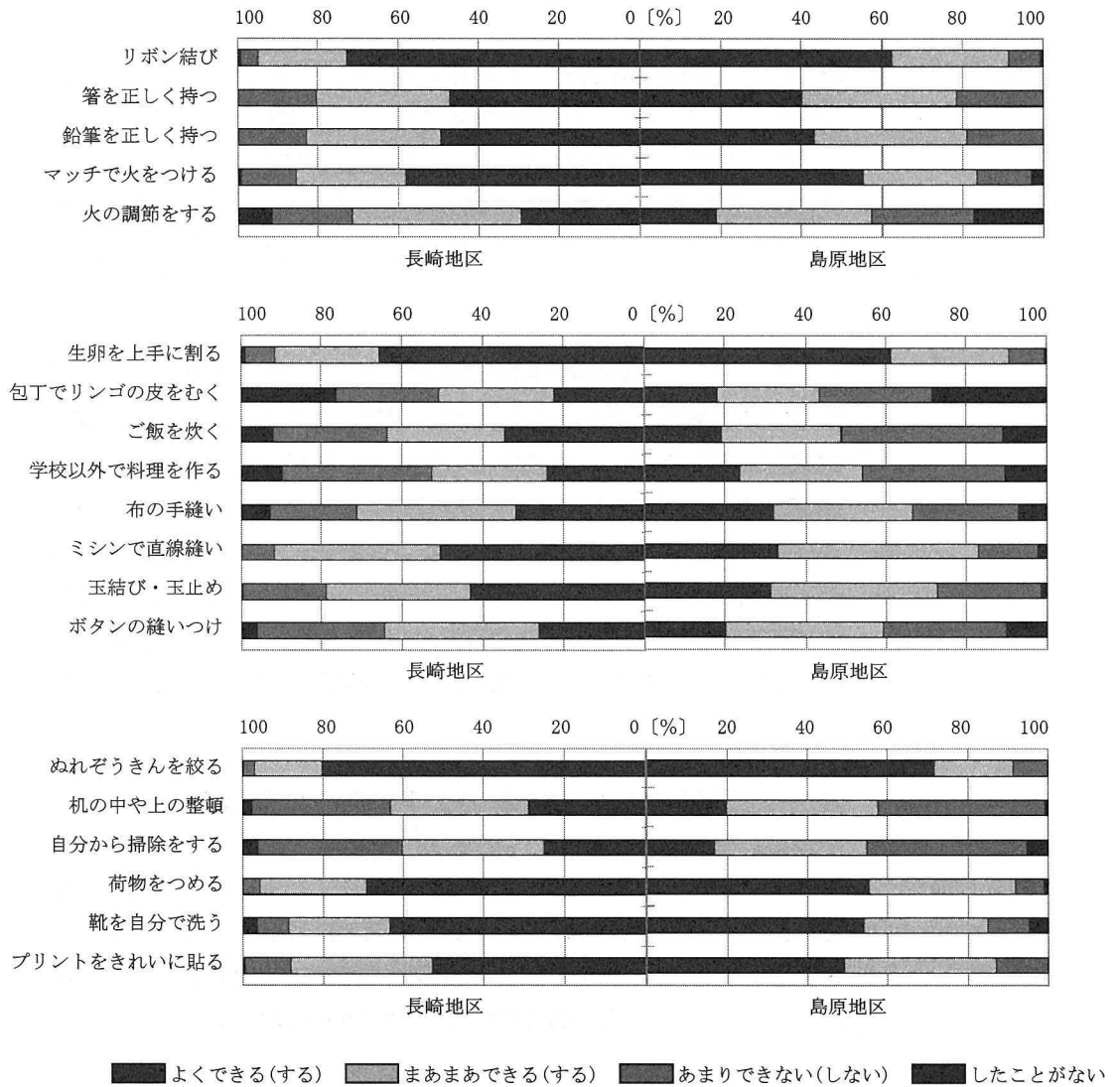
マッチを使うことに関しては、全体では「よくできる」が 5 割を超えていたが、男女別で見ると、女子児童が 4 割程度と低いのにに対して、男子児童は 9 割程度と非常に高く、男子児童の方が得意に感じている。

調理・裁縫に関する技能に関しては、女子児童の方が男子児童より「よくできる」の割合が 2 割程度高かった。また、男子児童は「したことがない」という回答も多くみられた。

掃除・整理整頓に関する技能に関しても、女子児童の方が男子児童より「よくできる」の割合が多く、男子児童は苦手意識を持っている。

第 1 部
 小学校児童（6 年生）の生活技能について

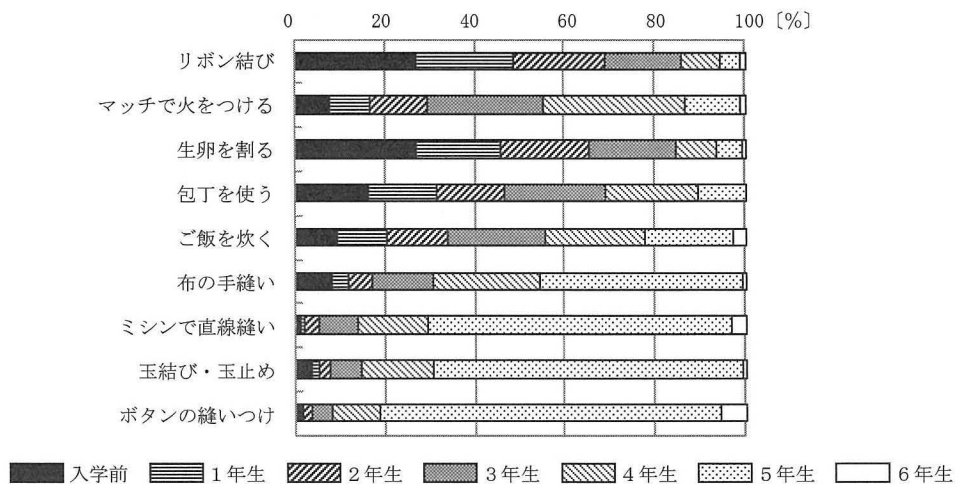
1 - 3. 生活一般／調理・裁縫／掃除・整理整頓に関する技能の地域別習得状況



いずれの技能項目においても、長崎地区の方が全体的にできる傾向にある。また「したことがない」の割合も島原地区の方がやや多く、長崎地区の児童の方が様々な経験をしてきているようだ。

第 1 部
 小学校児童（6 年生）の生活技能について

1-4. 生活一般／調理・裁縫／掃除・整理整頓に関する技能の経験時期



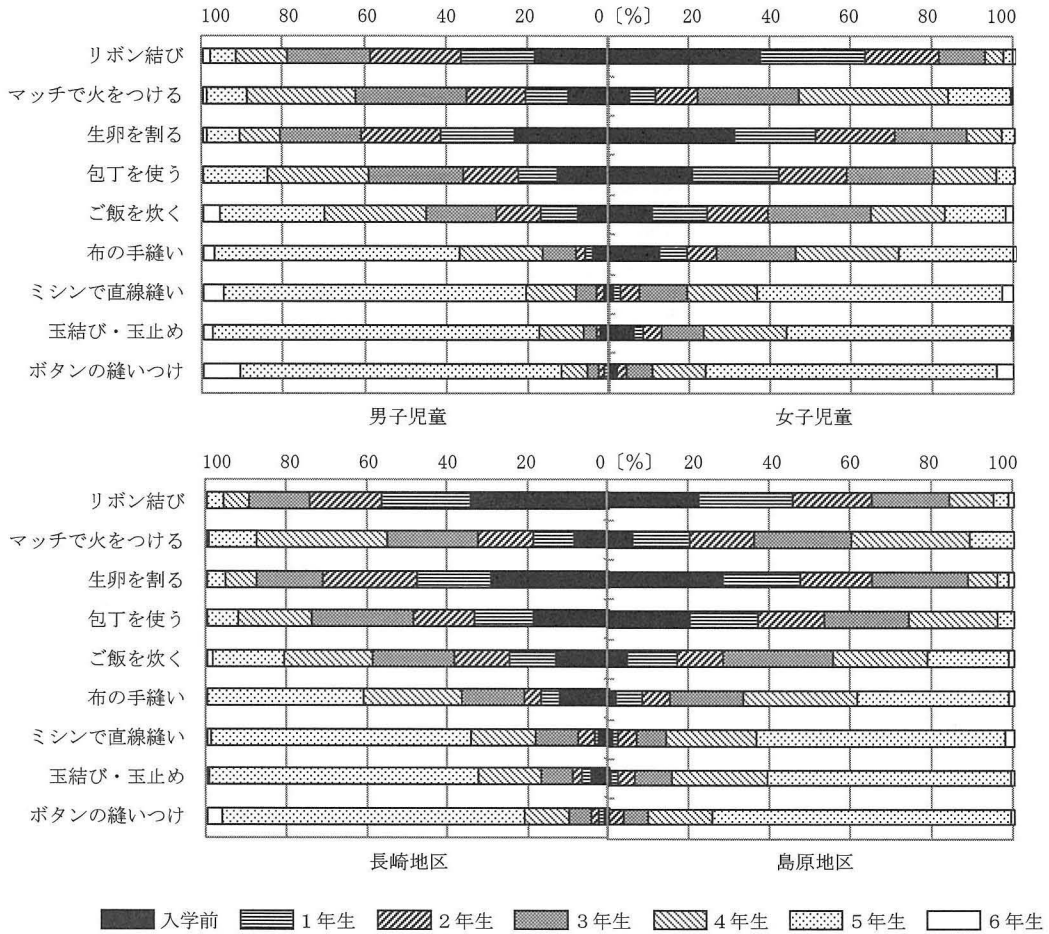
生活一般に関する技能は、各学年で順次経験してきており、5年生までにほとんどの児童が経験している。

裁縫に関する技能は、5年生で初めて経験した児童が7割以上と、5年生での経験が非常に多く、小学校家庭科での学習が初めての経験の場と考えられる。逆に考えると、裁縫に関しては家庭で経験することがないとも言える。また、調理に関しては、4年生までに8割以上が経験していることから、小学校家庭科で学習する以前に家庭等で経験していることがうかがえる。

8割を超える児童が体験する時期とその技能項目

時期	8割を超える児童が体験している技能項目
3年生	リボン結び、生卵を割る
4年生	マッチで火をつける、包丁を使う、
5年生	ご飯を炊く、布の手縫い、ミシンで直線縫い、 玉結び・玉止め、ボタンの縫いつけ

第 1 部
 小学校児童（6年生）の生活技能について

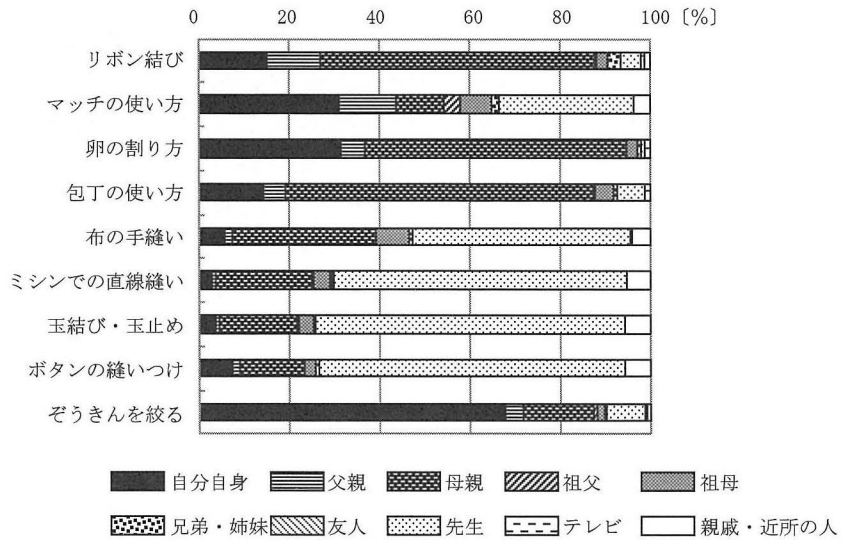


生活一般、調理・裁縫ともに、女子児童の方が早く経験している。特に調理・裁縫に関しては、5年生からの小学校家庭科における学習以前の経験割合が、男子児童に比べ1割～2割程度高い。

入学前の経験は長崎地区の方が多く傾向にあるが、小学校入学後は島原地区の方が少しながら早く経験しており、4年生までを比べると島原地区の方がやや多い。

第 1 部
 小学校児童（6年生）の生活技能について

1-5. 生活一般／調理・裁縫／掃除・整理整頓に関する技能を教わった人物

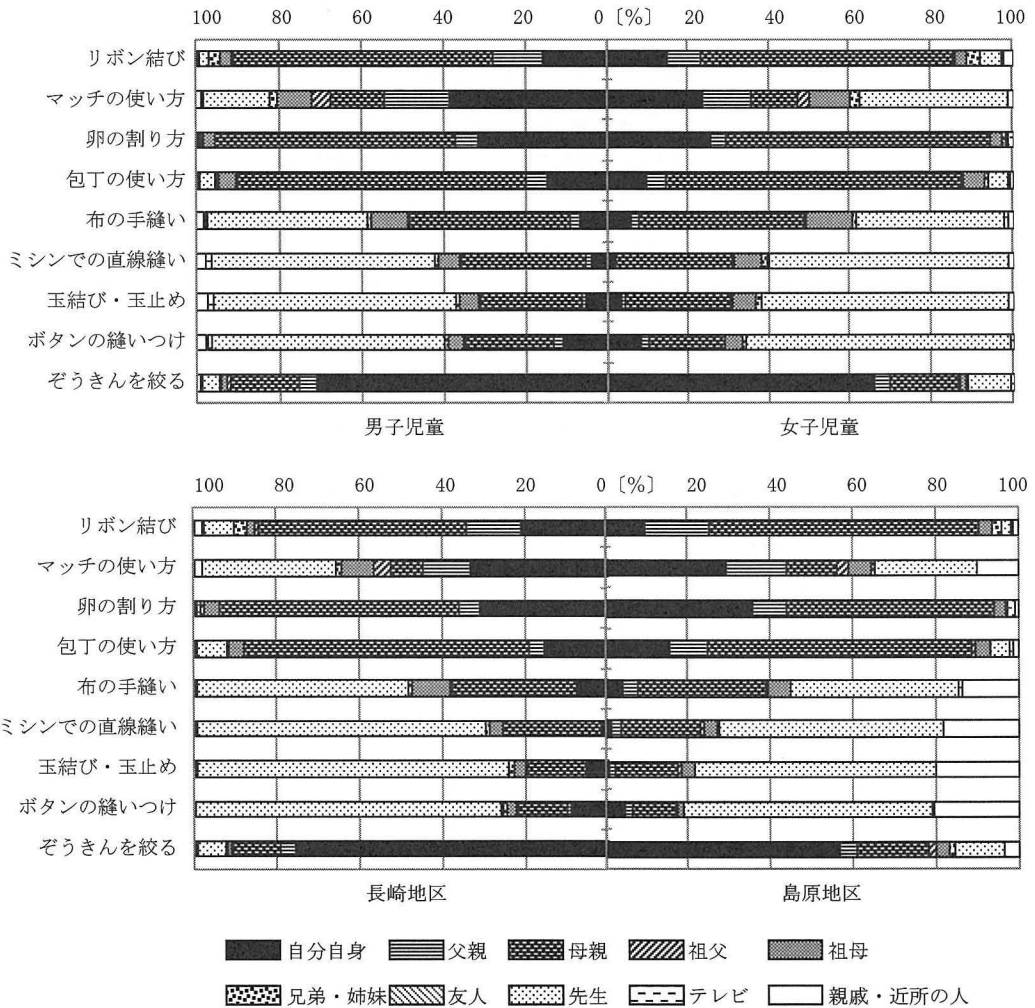


調理に関しては、母親の関与が6割を超え非常に高く、家庭での経験が見られるのに対し、裁縫に関しては、教師の関与が7割程度と非常に高く、裁縫に関する技能の習得は学校に依存していることを裏付ける結果となった。

各技能項目における教わった人物の割合

	1位	2位	3位
リボン結び	母親 (60%)	自分 (15%)	父親 (12%)
マッチの使い方	自分 (32%)	教師 (30%)	父親 (13%)
卵の割り方	母親 (58%)	自分 (32%)	父親 (5%)
包丁の使い方	母親 (70%)	自分 (15%)	教師 (5%)
布の手縫い	教師 (47%)	母親 (32%)	祖母 (9%)
ミシンでの直線縫い	教師 (65%)	母親 (23%)	親戚・近隣 (5%)
玉結び・玉止め	教師 (70%)	母親 (18%)	親戚・近隣 (5%)
ボタンの縫い付け	教師 (68%)	母親 (15%)	自分 (8%)
ぞうきんを絞る	自分 (68%)	母親 (15%)	教師 (8%)

第 1 部
 小学校児童（6年生）の生活技能について



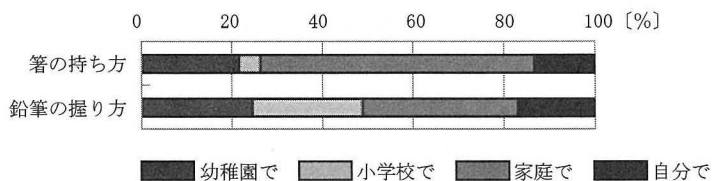
いずれの技能においても、女子児童に比べ、男子児童は自己習得率が高い。また若干ではあるが、男子児童は親戚・近所の人との関わりが見られる。

島原地区では長崎地区に比べ、親戚・近所の人との関わりが1～2割と非常に高く、生活環境の違いが大きく見られた。

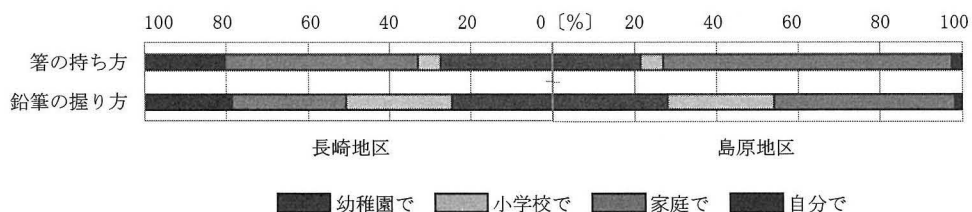
第 1 部
 小学校児童（6 年生）の生活技能について

1-6. 生活一般／調理・裁縫／掃除・整理整頓に関する技能の関連設問

(1) 箸・鉛筆の持ち方を教わった場所

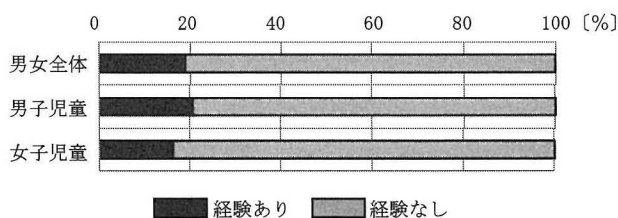


箸に関しては、家庭で習った割合が高いが、鉛筆に関しては、幼稚園および学校が約半数と高い割合であった。これは食事の場が家庭であることに対し、学習の場は幼稚園および学校であるということなのだろう。

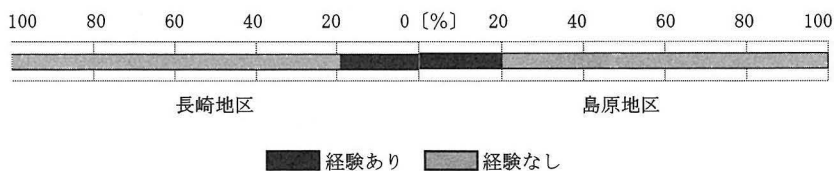


長崎地区の児童の 2 割以上が自分で使えたと答えており、自己習得率の高い。

(2) 魚をさばいた経験



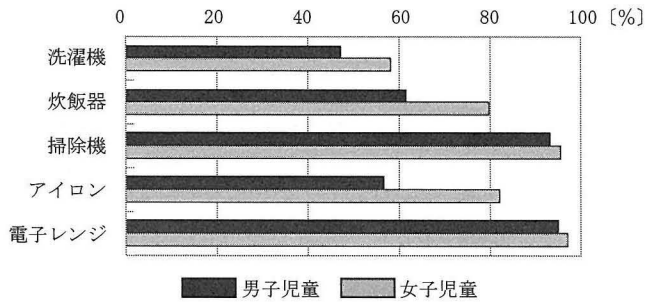
男女ともに、経験したことがある児童は非常に少ない。調理に関する技能は男子児童の方が低かったのに対し、魚をさばいた経験は男子児童の方があるという結果となったが、これは男子児童が釣りなどで釣った魚をさばいたりするからではないかと考えられる。



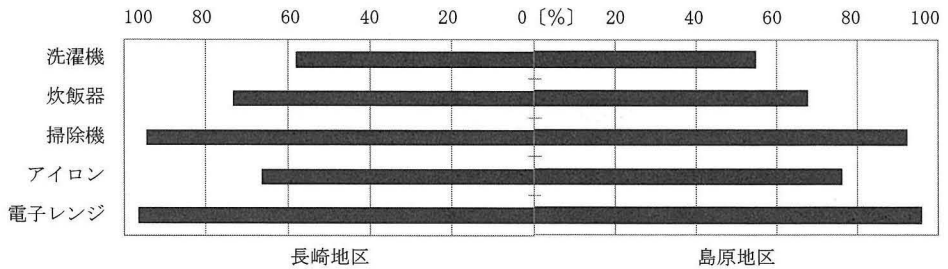
地域によって、大きな差は見られない。

第 1 部
 小学校児童（6年生）の生活技能について

(3) 一人で利用できる電化製品



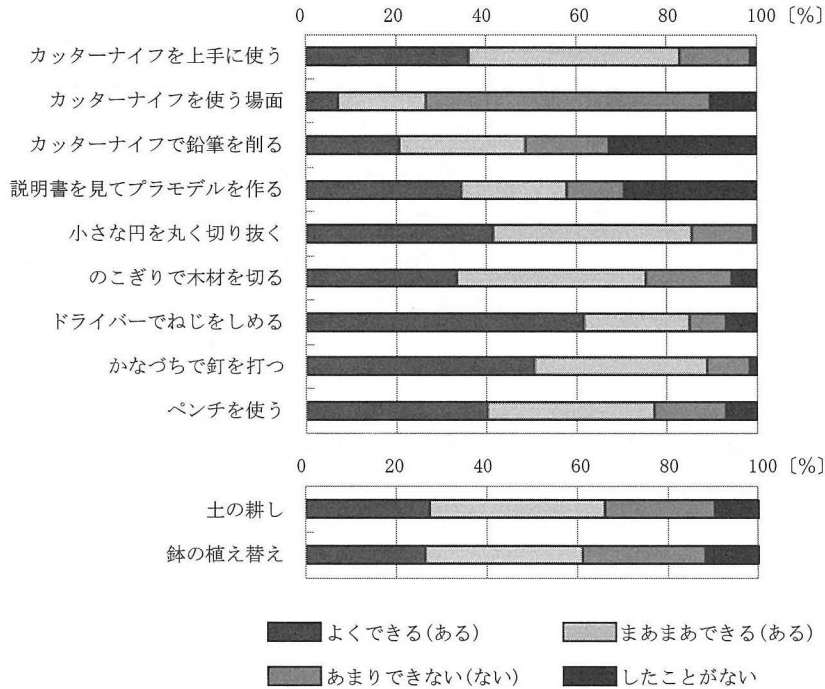
掃除機や電子レンジについては、男女でほとんど差がなく、またほとんどの児童が使うことができると答えていたが、そのほかのものについては、女子児童の方がよく使える傾向にあった。また、洗濯機は男女ともにあまり使えないようだ。



地域によって、大きな差は見られない。

2. 工作／栽培に関する技能

2-1. 工作／栽培に関する技能の習得状況



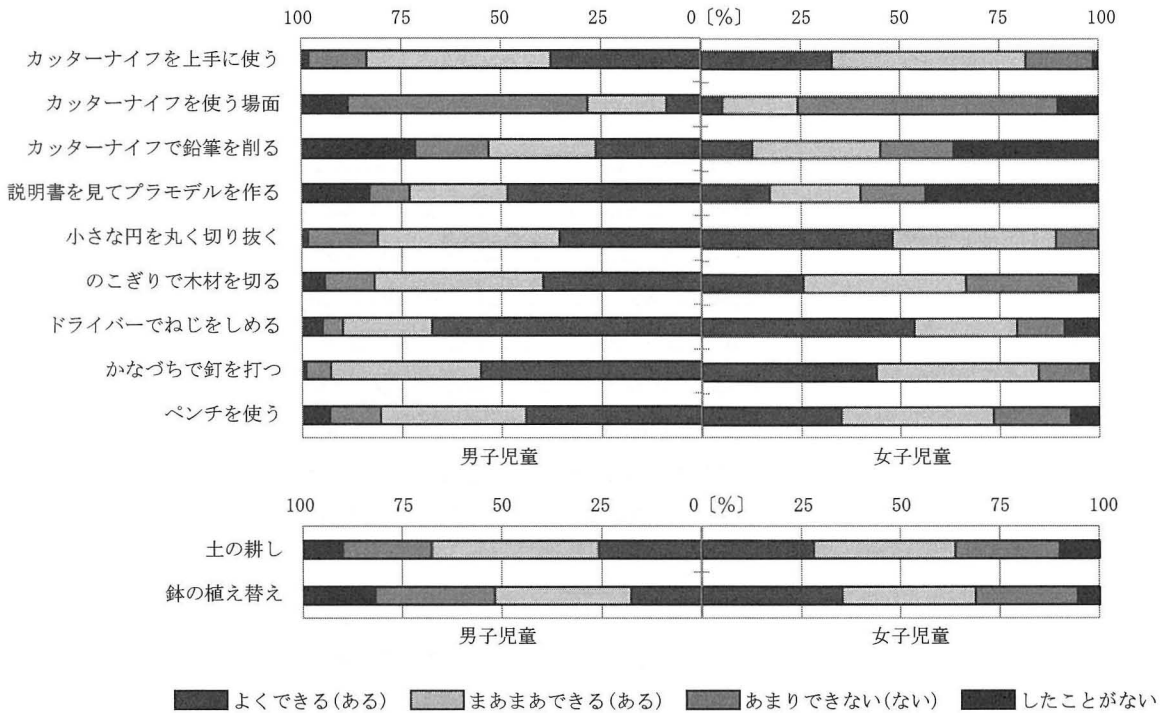
「まあまあできる」を含めると、8割以上の児童がカッターナイフを上手に使うことができると答えているが、実際にカッターナイフを使う場面に関しては、6割以上の児童が「あまりない」と答えており、ギャップが見られた。また、カッターナイフで鉛筆を削ることに関しては、3割以上の児童が「したことがない」と答えていた。

のこぎりやドライバー、かなづち、ペンチなどの工具の使用に関しては、自信を持って「よくできる」と答えた児童は少ないが、「まあまあできる」を含めると、8割程度の児童が「できる」と答えていた。しかしその一方で、「したことがない」と答えた児童も目立つ。

栽培に関しては、「よくできる」と答えた児童が3割未満で、「あまりできない」と答えた児童が3割程度おり、さらに「したことがない」と答えた児童が1割いるなど、全体的に「できない」「したことがない」という割合が高かった。

第 1 部
 小学校児童（6年生）の生活技能について

2-2. 工作／栽培に関する技能の男女別習得状況



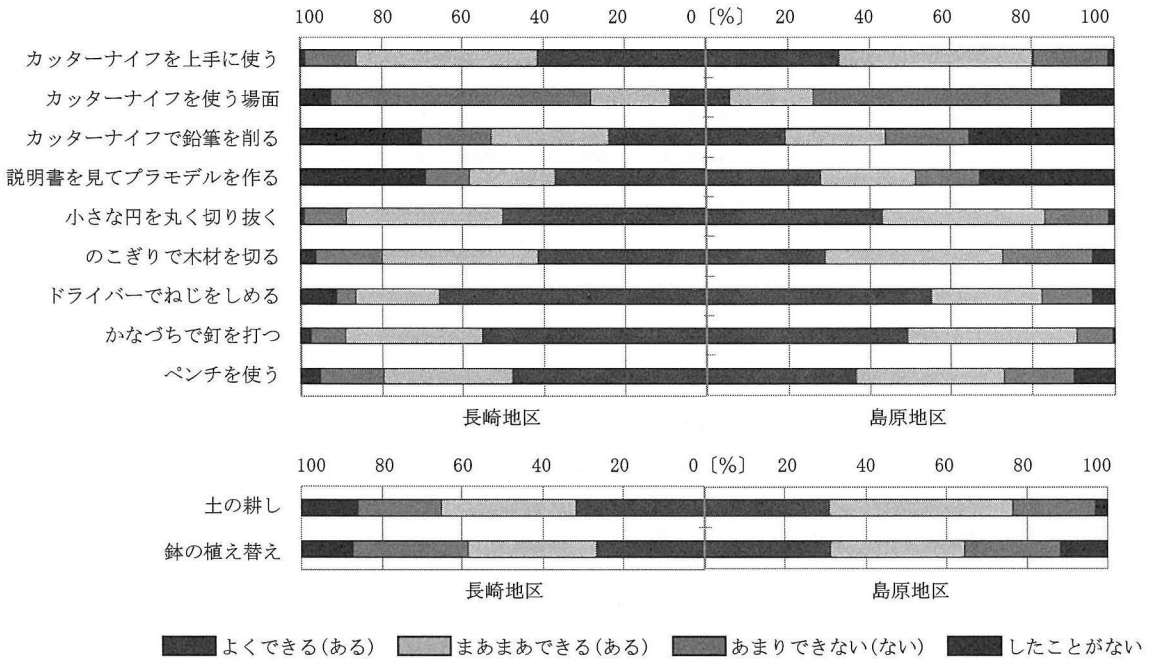
カッターナイフの使用やその使用場面は、男女でほとんど差は見られない。

全体的に男子児童の方が、よくできる傾向にあるが、小さな円を切りぬくなどの細かい作業については、女子児童の方が得意なようだ。

土の耕しに関しては、男女でほとんど差がないが、鉢の植え替えに関しては、女子児童の方が経験した割合も高く、またよくできる傾向にある。

第 1 部
 小学校児童（6年生）の生活技能について

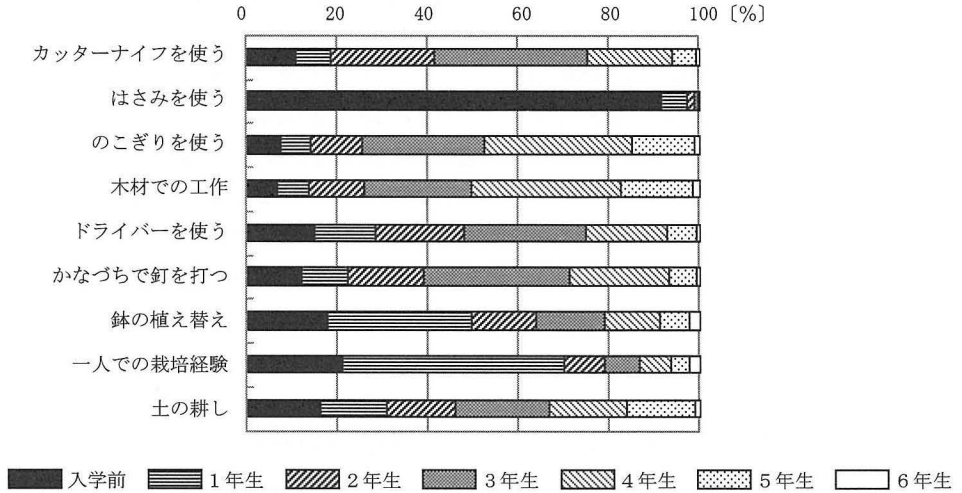
2-3. 工作／栽培に関する技能の地域別習得状況



工作分野では、長崎地区の児童の方ができる傾向にある。
 栽培分野では、わずかながら島原地区の児童の方ができる傾向にある。

第 1 部
 小学校児童（6年生）の生活技能について

2-4. 工作／栽培に関する技能の経験時期



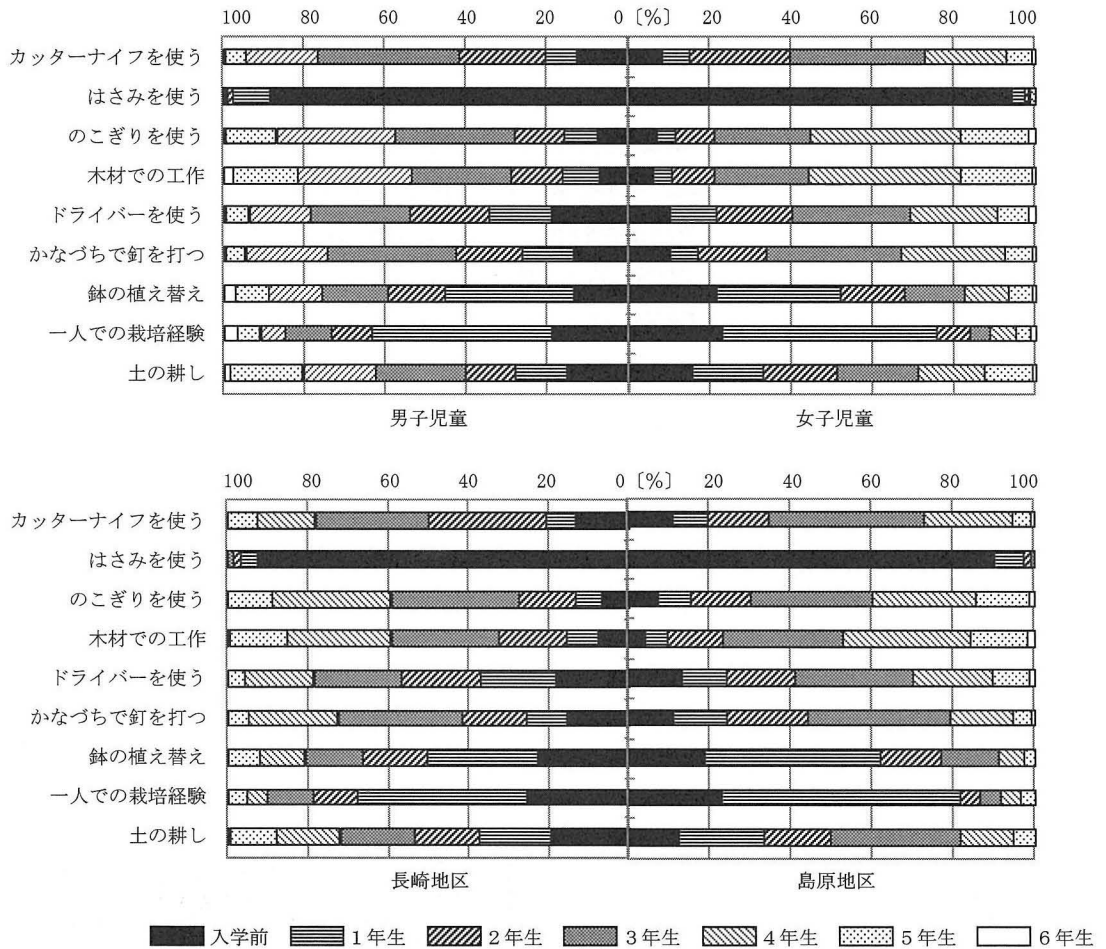
工作に関しては、3、4年生の占める割合が高く、全体の5～6割程度あるが、はさみは9割以上の児童が入学前に使用している。また、カッターナイフについては3年生で使い始めた児童が約3割を占める。

栽培に関しては、2年生までに半数の児童が経験しており、特に1年生での経験が多い。おそらく小学校生活科での学習が初めての経験の場となっていると思われる。

8割を超える児童が体験する時期とその技能項目

時期	8割を超える児童が体験している技能項目
入学前	はさみを使う
3年生	一人での栽培
4年生	カッターナイフを使う、のこぎりを使う、木材での工作、かなづちを使う、ドライバーでねじをしめる、鉋の植え替え、土の耕し

第 1 部
 小学校児童（6年生）の生活技能について

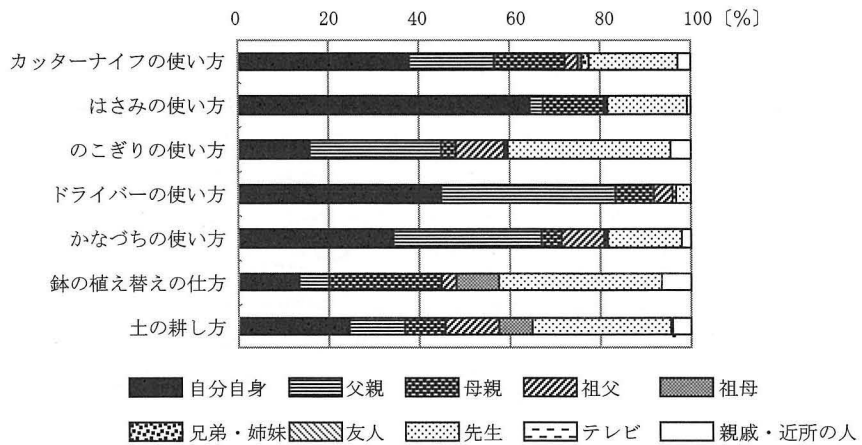


工作に関しては、男子児童の方が早くに経験しているが、4年生までには男女で同程度になっている。また栽培に関しては、女子児童の方が早くに経験している。

長崎地区の児童が入学前の経験が多いのに対して、島原地区の児童は入学後の経験が多い傾向にある。また特に栽培については、島原地区の児童の方が体験時期が早い。

第 1 部
 小学校児童（6年生）の生活技能について

2-5. 工作／栽培に関する技能を教わった人物



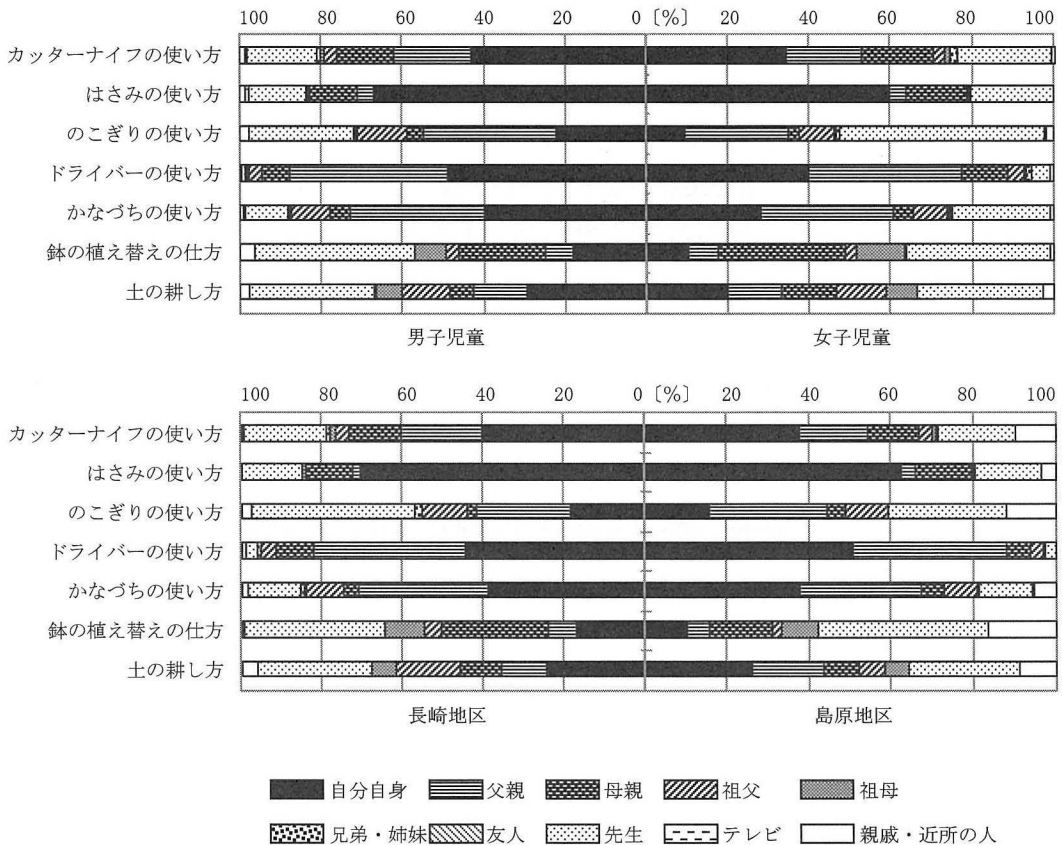
カッターナイフやはさみ、工具などは自分で使えるようになったと答えた児童が多いが、その一方で父親の関与も3割程度あり、多いことがわかる。

栽培に関しては、教師の関与が3割程度と最も多いが、母親の関与や祖父・祖母の関与も見られる。

各技能項目における教わった人物の割合

	1位	2位	3位
カッターの使い方	自分 (37%)	教師 (20%)	父親 (19%)
はさみの使い方	自分 (65%)	教師 (17%)	母親 (13%)
のこぎりの使い方	教師 (35%)	父親 (30%)	自分 (15%)
ドライバーの使い方	自分 (45%)	父親 (39%)	母親 (8%)
かなづちの使い方	自分 (34%)	父親 (33%)	教師 (15%)
鉢の植え替えの仕方	教師 (37%)	母親 (26%)	親戚・近隣 (7%)
土の耕し方	教師 (30%)	自分 (24%)	父親 (15%)

第 1 部
 小学校児童（6年生）の生活技能について

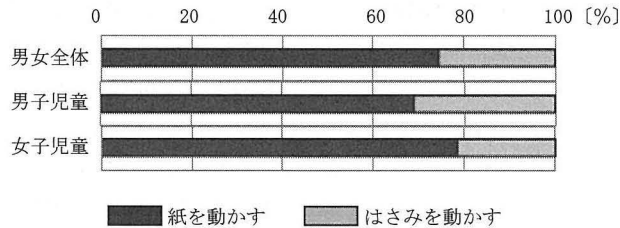


男子児童の方が自己習得率が高い傾向にある。また若干ではあるが、父親との関わりは男子児童の方が多いのに対して、教師との関わりは女子児童の方が多い。

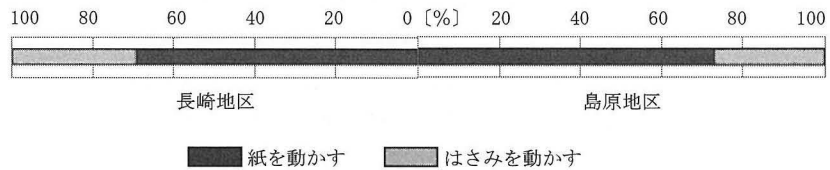
長崎地区の児童ではほとんど見られないが、島原地区の児童では親戚・近所の人との関わりが見られ、長崎地区の児童が日常生活において、そのような人とのつながりが希薄であることがうかがえる。

2-6. 工作／栽培に関する技能の関連設問

(1) 小さな円を切りぬく時のはさみの動かし方

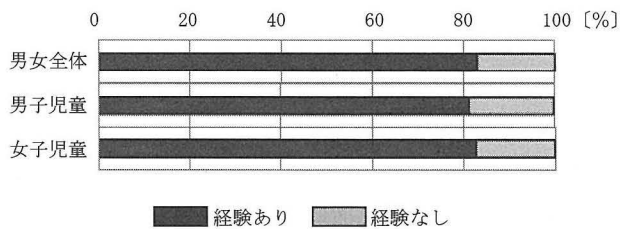


「紙を動かす」と答えた児童が多数だが、女子児童の方が特に高い割合で、前述した細かい作業は女子児童の方が得意だ、ということをも裏付けるものとなっている。

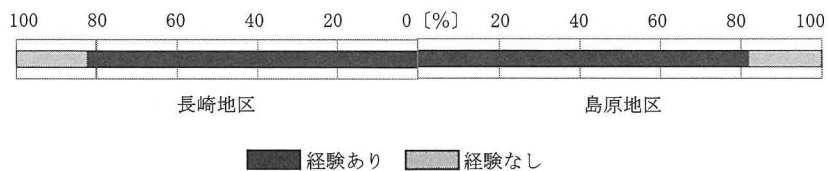


地域によって、大きな差は見られない。

(2) 木材での工作経験



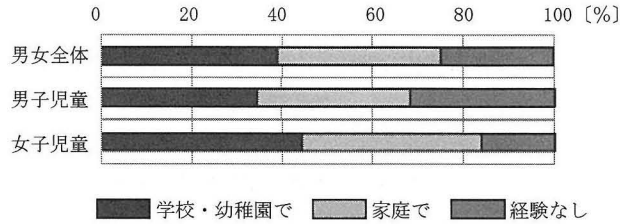
男女で大きな差は見られないが、6年生までに木材工作の経験がない児童が約2割いることが分かる。



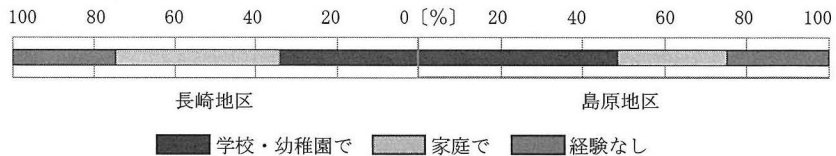
地域によって、大きな差は見られない。

第 1 部
 小学校児童（6年生）の生活技能について

(3) 一人での栽培経験

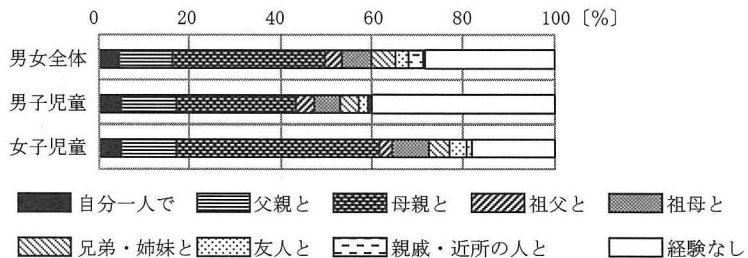


学校・幼稚園と家庭とではほぼ同じ割合となった。また、女子児童の方が経験したことのある割合が高く、男子児童より 1 割以上高かった。さらに男子児童は一人での栽培経験も少なく、約 3 割が一人での栽培経験がない。

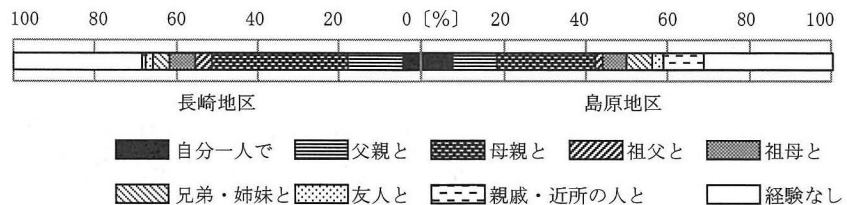


長崎地区の児童は家庭での経験が多く、島原地区の児童は学校等での経験が多い。

(4) 学校以外で栽培を一緒にした人物



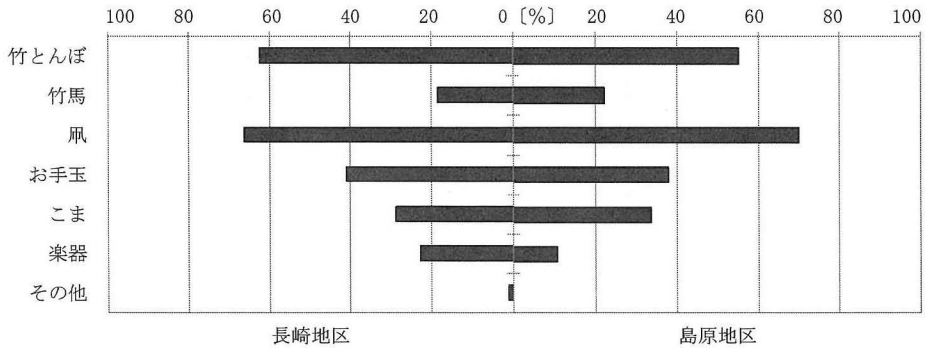
学校以外で栽培を一緒にした人、すなわち教師以外で栽培を一緒にした人物は、母親が 4 割程度と非常に高かった。次点で、父親、祖母という結果となった。



長崎地区の児童では母親が多く、島原地区の児童では親戚・近所の人が多い。

第 1 部
小学校児童（6年生）の生活技能について

(5) 作ったことのあるもの



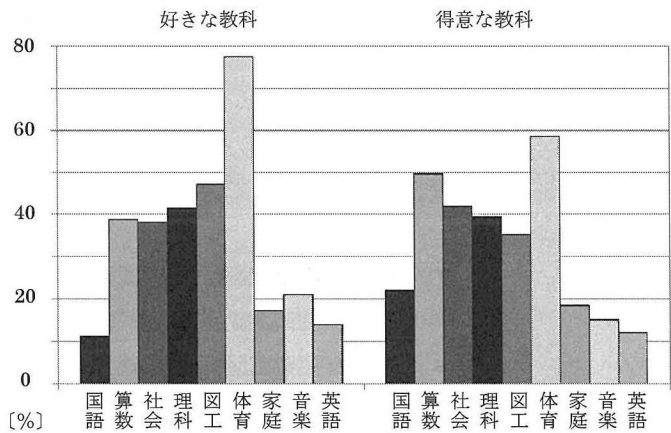
竹馬、凧、こまは島原地区の児童の方がやや高いが、それ以外は長崎地区の児童の方が高く、長崎地区の児童の方が色々なものを作っているようだ。

好きな教科・得意な教科は？

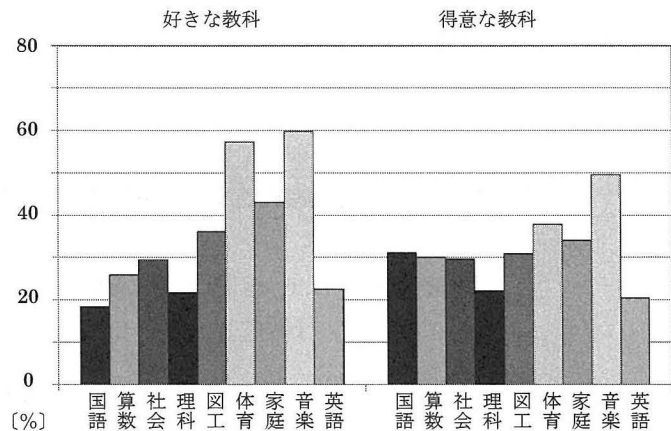
好きな教科・得意な教科について、国語、算数、社会、理科、図工、体育、家庭、音楽の8教科および英語を含む9つから、上位3つを選択してもらったところ、右グラフのような結果となった。

男女ともに体育が高く、女子は家庭、音楽も高い。また、図工なども比較的高いことから、体を動かすような教科が好きな傾向にあるようだ。

好きな教科と得意な教科のグラフは必ずしも一致せず、「好き=得意」というわけではないようで、国語、算数、社会、理科などの主要教科は好きではないが比較的得意な傾向にある。



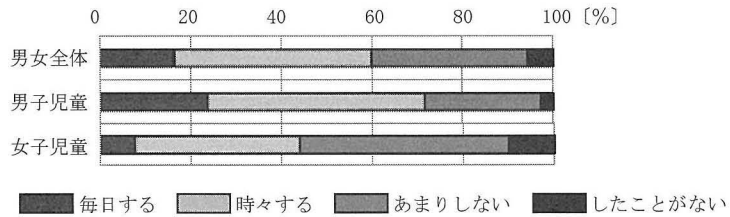
男子児童の結果



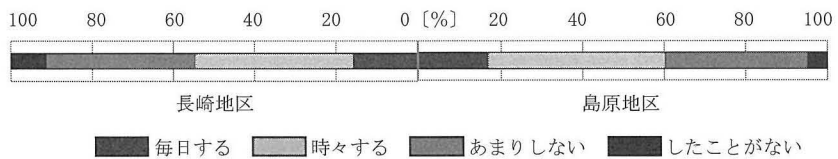
女子児童の結果

3. その他・生活習慣等の関連設問

(1) テレビゲームの頻度

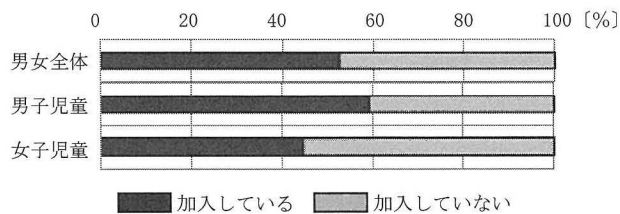


テレビゲームの頻度は男子児童が非常に高く、「毎日する」児童は2割以上、「時々する」を含めると7割以上の男子児童がテレビゲームをよくしていた。女子児童は5割にも届いておらず、「したことがない」という女子児童も1割程度いた。

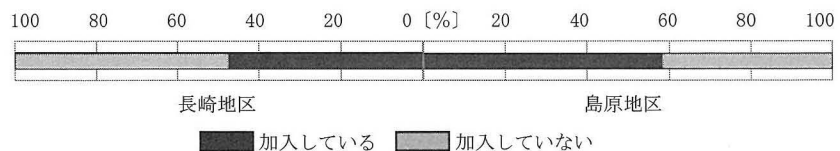


島原地区の児童の方がやや頻度が高い。

(2) スポーツクラブへの加入状況



スポーツクラブには半数以上の児童が加入していた。男子児童に比べ、女子児童が1割以上少ないが、スポーツではなくピアノなどの習い事をしているのではないだろうか。



島原地区の児童の方がスポーツクラブへの加入率が高い。